

発行：日本リスク研究学会(The Society for Risk Analysis: Japan-Section)

会長：木下 富雄

事務局：〒305 つくば市天王台 1-1-1

筑波大学社会工学系 池田研究室気付

発行責任者・事務局担当理事

TEL. 0298(53)5380 FAX. (55)3849

池田 三郎

--- 目次 ---

- 1。第6回研究発表会のプログラムと会場案内
- 2。リスク研究学会誌第5巻第1号(特別号)及び2号(予定)の目次
- 3。事務局日より
 - 3.1 「日本リスク研究学会賞」創設のお知らせと基金募集のお願い
 - 3.2 年会費(1993年度)納入のお願い
 - 3.3 日本学術会議学術団体への登録
 - 3.4 リスク関連の学会・会議のお知らせ
 - 3.5 SRAニュース
 - 3.6 第6回研究発表会参加申込書

1。第6回研究発表会のプログラムと会場案内

本年度の研究発表会(年会)は、来る11月25日(木)と26日(金)の2日間、東京都内で開催することとなりました。共通テーマは「リスク対話とリスクの説明と同意」です。各種のリスクに関する情報が、発信者と受信者との間に平等に配分されていないとき、深刻な事態がいろいろ発生します。このとき、必要とされる情報の往復作業のありかたを多角的に考えてみたいと思います。

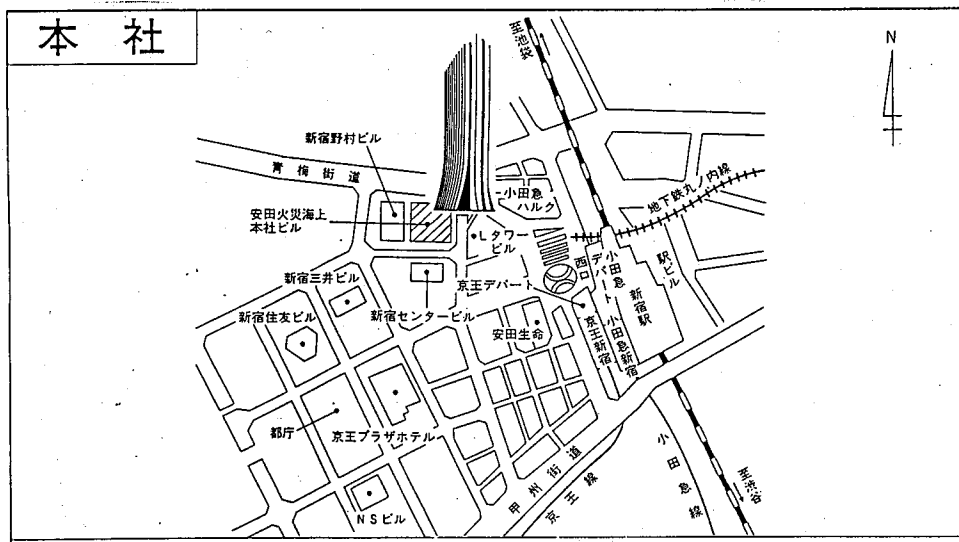
(1) 日時：1993年11月25日(木)および26日(金)

(2) 場所：安田火災海上本社ビル、2階講堂

(〒160 東京都新宿区西新宿 1-26-1 新宿駅西口高層ビル方面徒歩5分

TEL. 03-3349-3311、加藤和彦理事気付(テクノサービス室)

(3) 参加費：4,000(会員)、5,000(一般)、3,000(学生)(講演論文集、会場費を含む)



(4) プログラム

11月25日(木)

9:30-11:30 企画セッションI (リスク・コミュニケーションと意思決定)

司会 内山 巖 (国立公衆衛生院)

1) 化学品安全管理のためのリスク・コミュニケーション

○関沢 純、大竹千代子 (国立衛生試験所)、
大島輝夫 (化学品安全管理研究所)、
後藤京子 (日本中毒情報センター)

2) 神奈川県における化学物質環境安全対策と情報提供

○松本 徹 (神奈川県環境部)、
吉見 洋、岡 敬一 (神奈川県環境科学センター)

3) 消費者の安全のために製造者に求められる商品情報

ワン 松子 (国民生活センター)

4) リスク・コミュニケーションにおける消費者の役割

神山 美智子 (東京弁護士会)

13:00-14:00 特別講演

司会 酒井泰弘 (筑波大学社会科学系)

『リスク学の課題 — 安全と危険』

末石富太郎 (初代会長、京都精華大学)

自然科学と人文・社会科学、学術属性からみたリスク学、リスク学の重要性などの問題について、大気汚染、環境中の有毒物質、核廃棄物処理、等を題材として、学際的立場からリスク管理について一般的な講演をしていただきます。

14:10-16:30 シンポジウム

「リスク対話とリスクの説明と同意 (インフォームド・コンセント)」

司会 三浦 卓 (国立環境研究所)

1) 環境問題におけるリスク・コミュニケーション

中村 正久 (滋賀県琵琶湖研究所)

2) 事業者と住民のリスク・コミュニケーション

山中 芳朗 (電力中央研究所)

3) 診療放射線技師教育におけるリスク・コミュニケーション教育

岩波 茂 (北里大学医学部)

4) 医師と患者のリスク・コミュニケーション

箕輪 良行 (自治医科大学大宮医療センター)

17:00-19:00 懇親会 (場所: 39階第5会議室、会費 3,000円予定)

11月26日(金)

9:30-11:30

一般セッションI (リスク評価とリスク認知)

司会 関沢 純(国立衛生試験所)

- 1) 放射線リスク評価のための動物実験における統計的モデルの適用について
緒方 裕光(国立公衆衛生院)
- 2) 一般人の量・反応関数の認知について
中谷内 一也(関西女子学院短期大学)
- 3) 日本とフランスにおける放射線リスクに対する認識の差
斉藤 節子(放射線疫学調査センター)
草間 朋子(東京大学医学部)
- 4) 医療従事者のHIV感染者・エイズ患者に対する意識と診療構造-全国調査結果の分析
広瀬 弘忠、中村仁美、中敏菜穂子、宮川稜子、
杉浦祐子、高梨靖恵(東京女子大学文理学部)

12:30-14:00

企画セッション2 (リスク・マネジメントと保険)

司会 加藤和彦(安田火災海上保険)

- 1) 製造物責任リスクと保険(仮)
朝見 行弘(福岡大学法学部)
- 2) 企業経営とリスク・マネジメント
森宮 康(明治大学法学部)
- 3) 危機管理におけるリスク・コミュニケーション
首藤 信彦(東海大学政治経済学部)

14:00-16:00

企画セッション3 (環境監査:製造者と消費者のリスク・コミュニケーション)

司会 天野 博正(電力中央研究所)

- 1) 環境監査の考え方およびその動向
矢部 浩祥(中央大学商学部)
- 2) 環境アカウンティング 池田 三郎(筑波大学社会工学系)
- 3) 公害防止管理から環境監査へ
木暮 和美(日本エヌ・ユー・エス(株))
- 4) リスク情報の提供にかかわる制度的枠組みについて
浅見 政江(慶応義塾大学大学院)

2. リスク研究学会誌第5巻第1号(特別号)及び2号(予定)の目次

リスク学事典編集委員会による特別号「リスク学のアプローチ」を第5巻第1号として9月27日に発行し、会員の皆様に無料にて発送しました。未着の会員の方は事務局までご連絡下さい。

本年も例年通りの研究発表会(年会)の論文を中心とした第5巻第2号を年度内に発行する予定です。その目次(予定)を以下にお知らせいたします。

日本リスク研究学会誌

第5巻 第2号 (1993年12月)

目次 (予定)

【解説論文】

環境・生態系リスク研究の課題とアプローチ

- 第6回春期講演シンポジウムのまとめ— 中村正久・草間朋子・他
特別講演「環境・生態系リスクと文化」 土屋健三郎
パネル討論 横山榮二・木下富雄・
松井三郎・中杉修身

【寄稿論文】

クライテリアドキュメントによる化学物質のリスクコミュニケーション

- 関沢 純・大竹千代子・
楊 学伸
チェルノブイリ原子力発電所事故の健康影響に関する日本人公衆の認識と
セシウム-137による内部被爆の実態とのギャップ 内山正史・小林定喜
医療場面におけるリスク・コミュニケーション 吉川肇子
環境リスク研究におけるモデルの役割 森澤眞輔・井上頼輝
アスベスト対策におけるリスクインデックス 寺園 淳・高月 紘・
酒井伸一
つくば市における揮発性有機塩素化合物の暴露量評価 相馬悠子・白石寛明・
三浦 卓・田中 敦・
森田昌敏
企業経営における危機の分析 村越稔弘
地震危険都市サンフランシスコのフェイル・セイフデザイン 小林正美

【研究論文】

(2~3件校閲中)

【研究短信】

- リスク・コミュニケーション研究のもうひとつの課題 浅見政江
安全工学から見たリスク学 中村林二郎

3. 事務局だより

3.1 「日本リスク研究学会賞」創設のお知らせと基金募集のお願い

日本リスク研究学会
会長 木下 富雄

拝啓 会員の皆様には、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

日本リスク研究学会も、1986年の創立以来、毎年1回の春期講演会および研究発表会を行い、学会誌を年1回発行、日本学術会議に加盟申請をするなど、リスク学の発展の為に着実に歩んでまいりました。本年度は年1回の学会誌発行に加えて、会員諸氏およびリスク学事典編集委員の努力により、学会誌特別号（第5巻第1号）として、「リスク学のアプローチ」が完成し、お手元にお届けすることができることになりました。リスク学を学び、研究する者にとって有益なものであると確信しております。

これを機会に学会では、さらに学会発表、論文の投稿を奨励し、リスク研究の発展を促すために「日本リスク研究学会賞」を創設することを決定し、目下、理事会で選考方法の細部を検討しているところです。

つきましては、学会賞の運営のための基金を創設したく、会員諸氏による募金をお願いする次第です。優れた研究を生み出すために、会員が互いに浄財を持ち寄り、これを原資に運営しようという趣旨であります。何かと物いりの時期で、誠に恐縮ですが、学会賞基金創設の意義をご高察の上、是非ご協力下さるようお願い申し上げます。

敬具

日本リスク研究学会賞（案）の概要

学会賞：論文賞（本学会誌上に発表された優秀な論文を対象とする）
：奨励賞（本学会での研究発表における発想、方法論、事例等の優れた研究報告を対象とする）

学会賞基金募金目標額：200万円

募 金 1 口 　　：1000円

（正会員：3-5口程度、賛助会員：50-100口程度を目標）

募 金 期 間 　　：平成5年10月～平成6年9月

（同封の振替用紙を御利用下さい）

担当役員 　　： 総務担当理事 内山 巖雄（国立公衆衛生院）

3.2 年会費（1993年度）納入のお願い

1989年度より年会費は下記のように据置いてがんばっています。会費の納入率は現在のところ約70%です。会費収入の大部分は学会誌・ニュースレターの発行、送料に充当しますので早期納入をお願い致します。

正会員： 4,000円

準会員： 2,500円

賛助会員： 30,000円

送付先：（郵便振替口座番号）宇都宮-3-11964

（銀行口座）常陽銀行研究学園都市支店 普通口座6814236

日本リスク研究学会

〒305 つくば市天王台1-1-1 筑波大学社会工学系池田研究室気付

3.3 日本学術会議学術団体への登録

かねてより木下富雄会長、事務局（総務担当内山巖雄理事）が進めてきました日本学術会議への学術団体としての登録が、このたび正式に認められました。

所属は第1部・行動科学研究連絡委員会です。この主たる理由は、当学会の現在の構成員数（300名弱）では、第5部（工学）、第7部（医学）など理工系に所属するには学術団体としての要件（500名以上等）が過大であり、登録がすぐには困難であり、当面は「リスク学」の学際的な性格の現状からみて、第1部行動科学への登録申請をするのは適切な策であると判断したためです。

日本学術会議の登録団体となることにより、会員選挙、学術研究連絡への公式の参加などさまざまな便宜や情報を得ることができるようになります。

3.4 リスク関連の学会・会議のお知らせ

第9回環境工学連合講演会

主催：日本学術会議環境工学研究連絡委員会

共催：土木学会ほか24学協会

1. 開催期日：1994年1月18日（火）～19日（水）
2. 会場：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7丁目22-34 電話03-3403-6291）
地下鉄・千代田線「乃木坂駅」下車。青山公園出口を出てすぐそば。
3. 参加費：無料。ただし講演会論文集（定価約3,000円）を会場にて販売します。
4. 参加申込み：はがきに所属学協会、勤務先、同所在地、氏名を記入のうえ、1994年1月10日（月）までに下記幹事学会までお申込み下さい。
〒160 東京都新宿区四谷1丁目無番地
（社）土木学会「第9回環境工学連合講演会」係
TEL. 03-3355-3441. FAX. 03-5379-0125

5. プログラム

統一テーマ「高密度社会の自然と技術」
総司会：大垣眞一郎（東京大学）

第1日：1月18日（火）

- 9:00～9:10 開会挨拶
松本順一郎（環境工学研連委員長／日本大学）
- 9:10～10:55 講演・討論「都市の多自然型技術」
座長 永見 康二（財）日本環境衛生センター
- (1) 河川における人工と自然
石川 忠晴（土木学会／東京工業大学）
- (2) 都市域における緑の役割
戸塚 績（大気汚染研究協会／東京農工大学）
- (3) 建物の緑化とその効果
梅干野 晃（空気調和・衛生工学会／東京工業大学）
- 11:05～12:15 講演・討論「高密度社会を支える技術(1)」
座長 二瓶 好正（東京大学）
- (4) 高密度社会におけるエネルギー有効利用
-産業系と生活系のインテグレーション-
亀山 秀雄（化学工学会／東京農工大学）
- (5) プラスチック材料とその再生利用技術
西郷 和彦（化学会／東京大学）
- 13:20～14:20 「特別講演(1)」
座長 杉島和三郎（菱日エンジニアリング）
高密度社会の人間と機械
土屋 喜一（機械学会／早稲田大学）
- 14:30～16:55 講演・討論「自然利用技術の展開」
座長 鈴木 基之（東京大学）14:30～15:40
- (6) 太陽エネルギー利用技術の高密度社会への適用
谷 辰夫（太陽エネルギー学会／東京理科大学）
- (7) 地熱エネルギーと地球環境問題
宇佐美 毅（資源・素材学会／資源環境総研）
座長 村山 勝男（機械電子検査検定協会）15:45～16:55
- (8) 環境にやさしい新素材ポリオレフィンコート肥料とその活用
庄司 貞雄（土壌肥料学会／東北大学）
- (9) 露天採掘事業における環境管理
阿部徳之助（資源・素材学会／武甲鉱業）
- 17:15～ 懇親会（会場未定）

第2日：1月19日（水）

- 9:00～10:45 講演・討論「高密度社会のソフト技術」
座長 中島 康孝（工学院大学）
- (10) 繁茂の風土の高密度社会とライフスタイル
荒谷 登（建築学会／北海道大学）
- (11) 高密度社会における健康リスクに対する考え方
草間 朋子（リスク学会／東京大学）
- (12) 空間の閉鎖性と解放性
乾 正雄（建築学会／東京工業大学）
- 10:55～12:05 講演・討論「高密度社会を支える技術(2)」
座長 松尾 友矩（東京大学）
- (13) 下水の高度処理技術の展望
宗宮 功（水環境学会／京都大学）
- (14) 都市ごみの真空輸送
-横浜市内における都市ごみの管路収集の実体について-
多賀 龍二（廃棄物学会／横浜市）
- 13:00～14:00 特別講演(2)
座長 松井 三郎（京都大学）
都市化とエネルギー・環境
林 良嗣（土木学会／名古屋大学）
- 14:10～17:10 パネル討論「高密度都市のための新しい試み」
座長 内藤 正明（国立環境工学研究所）・大垣眞一郎（東京大学）
- P-1 リサイクル環境
中杉 修身（廃棄物学会／国立環境研）
- P-2 地下躯体の再利用
小川 敏宏（土質工学会／清水建設）
- P-3 都市のエネルギー管理
若谷 佳史（土木学会／電力中研）
- P-4 自然と調和した建築・街づくり
松縄 堅（空気調和・衛生工学会／日建設計）
- P-5 水辺の環境管理
古橋紀美一（水環境学会／東京都）
- 17:10～17:20 閉会挨拶
明晶 高司（学術会議会員／東京理科大学）

現代文明と人類の生存 - 技術の発展の光と影 -

東京大学先端科学技術研究センターの竹内 啓を代表者として、第一線の研究者19名による、高度技術社会をテーマとしたシンポジウム。科学の最先端を、一般向けにわかりやすくかみくだいた講演・パネルディスカッションです。

日時：平成6年1月29日（土）～30日（日） 10:50～18:00

会場：有楽町朝日ホール（東京都千代田区有楽町2-5-1有楽町マリオン11F）

参加費：無料（全席自由席）

主催：第8回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会

○1日目-1月29日（土）

挨拶（10:50～11:00）第8回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会 文部省

総括講演（11:00～12:50）竹内 啓 鶴野公郎

高度技術化に伴う環境変容Ⅰ（14:00～16:00）湯本 昌 吉岡 斉 児玉文雄

高度技術化に伴う環境変容Ⅱ（16:20～18:00）佐久間章行 宮台真司

○2日目-1月30日（日）

特別講演（10:00～11:50）村上陽一郎 古川俊之

パネル討論「環境と経済」（13:00～17:00）

綿穂邦彦 阿部寛治 森 敏 河宮信郎 吉岡完治 松岡秀雄

申込方法：はがきに ①セッション名「現代文明」②参加日時③住所、電話④氏名
⑤職業（勤務先）を明記のうえお申込ください。

申込・問合せ： 〒107 東京都港区赤坂7-6-55-401 ルーム2内
「現代文明」事務局

TEL. 03-3588-8641

SRA-Europe Establishes Award

An internationally renowned anthropologist, Mary T. Douglas, will receive the first SRA-Europe Distinguished Achievement Award.

The Executive Committee of the Society for Risk Analysis-Europe established the award to honor professionals in Europe who have made outstanding scientific contributions to the field of risk analysis.

Douglas, who was born in Italy and now resides in England, has been chosen to receive the award in recognition of her research on hazard management and on cultural perspectives.

An anthropologist and professor emeritus, Douglas co-authored the book "Risk and Culture: An Essay on the Selection of Technical and Environmental Dangers" in 1982 with Aaron Wildavsky. In 1992, she published "Risk and Blame: Essays in Cultural Theory." The ideas she presented in the first volume are said to have "startled the fields of technological hazard management," and those in her second volume are said to have "offered the communities of risk professionals an un-

SRA-Europe Holds 4th Conference

The Society for Risk Analysis-Europe will hold its fourth annual conference on October 18-20 in Rome, Italy.

SRA President Jim Wilson will represent the Society's Council in the United States at the conference, which is titled "European Technology and Experience in Safety Analysis and Risk Management: 10 Years After the Seveso Directive."

To register for the conference, contact:

Paolo Vestrucci
N.I.E.R.
Via S. Stefano 16
40125 Bologna, Italy
Telephone: 39 51 239 728
Fax: 39 51 227 824

usual but new perspective on their crafts," said Pieter Jan Stallen, former SRA-Europe president.

It has been written that "Professor Douglas' insights are touching ground in the community of risk analysts and regulators trying to come to grips with the hazards of technological development and environmental degradation. Yet her ideas are very practical in a

Europe that has a common market but at the same time is becoming more culturally diverse," Stallen said. Douglas' latest book is "Objects and Objections," published in 1993.

In October, Douglas will speak on "Cultural Perspectives on Risk Perception Research" at the SRA-Europe Conference in Rome, Italy, where she will receive the award.

SRA Expands Annual Meeting

The Society for Risk Analysis will present a record eight topic areas at its 1993 Annual Meeting on December 6-9 in Savannah, Georgia. The topic areas and the names of the people helping organize them and their telephone numbers are as follows:

- *Dose-Response Assessment*, Bob Hetes, (919) 541-5995, and Annie Jarabek, (919) 541-4847
- *Ecological Risk Assessment*, Larry Barnthouse, (615) 574-7393
- *Engineering*, Stanley Levinson, (804) 385-2768
- *Exposure Assessment*, Bob Fares, (703) 642-6863
- *Global and Environmental Risk*, Justin Lancaster, (617) 432-3330
- *Regulatory Policy and Decision Making*, Deborah Amaral, (919) 966-6691
- *Risk Characterization*, Bob Hetes, (919) 541-5995
- *Risk Communication*, Virginia Sublet, (513) 321-6704.

Authors have submitted nearly 300 abstracts to annual meeting organizers, said Bob Hetes, who is co-chair of the SRA Technical Program Committee along with Deborah Amaral and Annie Jarabek. "The quality of the abstracts was very good, but given the large number of abstracts received, not all of them could be accepted."

Awards Opened

This year for the first time the Society is introducing awards for the best poster presentation and for best student papers, both of which will be based on scientific rigor, creativity, and the advancement of risk assessment. The SRA member who receives the poster award will receive acknowledgment with an inscribed plaque and an announcement in the newsletter. Award-winning students will receive \$500 each to defray travel expenses to the annual meeting.

16 Special Sessions Planned

The annual meeting program includes 16 special sessions this year: determining the impact of hazardous waste sites on human health; electro-

In Search of the Perfect Poster

At last year's annual meeting, the poster sessions generated both positive and negative comments from attendees, who raised concerns about the structure of the poster sessions and about the format of individual posters.

"Poster sessions have a place at SRA meetings, but ensuring their success requires limiting posters to material appropriate for this format, enforcing guidance to poster design rules, and structuring the sessions for maximum value," commented SRA member Russell Malcolm, who is the technical program coordinator for biomarkers at the U.S. Environmental Protection Agency's Office of Research and Development.

Malcolm pointed to the Society of Toxicology's structure of poster sessions as a good example. "Posters devoted to a single topic are grouped in one room and viewed for a specified period of time, and the presenters are on hand for informal discussions. Then that is followed by a discussion session, with viewers and presenters convening under the direction of a session chairperson."

To help SRA members as they prepare for this year's annual meeting, RISK newsletter has put together a list of top 10 tips for poster presenters from various sources, including Alan Singleton's book "Poster Sessions: A Guide to Their Use at Meetings and Conferences," published by Elsevier International Bulletins in Oxford, England.

1. Clearly label the poster's sequence. Clearly label the sequence of text and graphics on your poster, using numbers or arrows. "Remember that the viewer may have just come from a poster arranged entirely differently," Singleton writes. Keep the poster simple and clear, even if the topic is complex.

(Continued on page 11.)

magnetic field risks (includes two sessions: risk communication and regulatory policy); EPA risk communication roundtable; fundamental aspects of risk assessment; gender differences in risk assessment; geostatistics (tentative); global and environmental health; low dose effects estimated by epidemiological v. extrapolation methods (tentative); low dose modeling for noncarcinogens (tentative); probabilistic methods in risk assessment; risk assessment methods for microbial contaminants in food and water; risk management in coastal and estuarine systems; successes and failures in siting noxious facilities; use of biological markers in exposure-dose-response assessment; and worth of science.

Workshop Planned

As it did last year, SRA also will host a special workshop on the Friday preceding the annual meeting. This year's workshop on December 3 is titled

"Methodologies for Comparative Risk Assessment." The workshop's seven-member panel will cover the quantitative and scientific rigor needed to evaluate different types of risks and risk trade-offs. The tentative program includes topics such as comparing risks from chemical substitution, chemical v. biological, chemical v. radiological, and cancer v. noncancer risks.

"Attendees should note that this workshop is not about the comparative risk efforts conducted by state and local governments, which attempt to rank overall existing environmental risks," Hetes said. "Rather it will focus on the quantitative methods used to evaluate risk trade-offs."

Risk Management Group to Meet

For those interested in forming a risk management specialty group, the technical program committee has scheduled a meeting at 5:30 p.m. Monday, December 6.

(Continued on page 9.)

Carnegie Report

(Continued from page 5.)

that regulatory agencies justify annual budget and program plans in the context of explicit long-term regulatory goals. Furthermore, Congress should work more closely with federal and state regulatory officials and experts in nongovernmental organizations to devise realistic regulatory goals and deadlines for meeting them.

Congress and the agencies have traditionally been reactive rather than proactive in addressing environmental, health, and safety risks. We encourage Congress and the president to take a longer-range view in devising broad policy mandates and to give regulatory agencies more freedom to conduct internal strategic planning exercises.

Strengthen Link Between Research and Policy Decisions. Regulatory agencies should enhance their long-range planning capabilities by strengthening the linkages between research and regulatory policy-making efforts and by undertaking policy planning exercises in the context of relative risk analyses.

Reduce Rule-Making Ossification. Regulatory agencies should experiment actively with the variety of

means available under existing authority to reduce rule-making ossification. Care should be taken with all experiments to preserve adequate opportunities for analysis and public participation.

Regulatory agencies should create a menu of procedures, ranging from highly simple to more complex, calling for various degrees of public participation and comment, which may be subject to varying degrees of judicial review, and whose legal status may also vary. Agencies could choose the kind of procedure they believe best fits the type of policy problem at hand from among the menu's options.

Inform Congress of Court Interpretations. Mechanisms should be explored to keep appropriate congressional committees informed of the interpretation made and ambiguities found by courts in the statutes that authorize rule making.

Ensure Early Communication Between Executive Office and Agencies. Executive Office officials should communicate less formally, earlier, and more directly with agency officials. The current process — agencies submitting rules to the Executive Office, followed by an Executive Office review for com-

pliance with presidential policies — can create an adversarial relationship between the agencies and the White House, sometimes resulting in delay. Increased informal consultation and discussion earlier in the rule-making process would prove beneficial and would likely lead to faster approval of more effective regulations.

Bolster Ties with Private Organizations. The extensive capabilities of nongovernmental organizations should be used more frequently to evaluate the regulatory process, suggest ways to improve existing regulatory strategies, and aid federal agencies in establishing regulatory priorities. Nongovernmental policy research organizations should establish stronger ties with scientists and engineers in universities to bolster their capacities to examine environmental and health risks issues.

Editor's note: Copies of the report "Risk and the Environment: Improving Regulatory Decision Making" are available for free by faxing or mailing a request to the Carnegie Commission, 437 Madison Avenue, 27th Floor, New York, NY 10022, fax (212) 754-4073, e-mail carnegie@acfl.nyu.edu.

For more information about the report, contact Jonathan Bender, telephone (212) 207-6336.

Industrial Risk Course Held in Moscow

Nearly 50 scientists and specialists from Russia, Austria, Great Britain, China, and Finland attended a seminar on industrial risk analysis in Moscow in February, reports SRA member Vitaly Eremenko.

Titled "Organization, Methods, and Means for Analysis of Regional Safety," the training course was organized by the Moscow International Centre of Educational Systems (ICES) and SRA-Europe.

Such courses are critical for Russia because "the development of the required scientific means and tools for environmental risk assessment and management has only just been initiated in Russia," Eremenko stated in a report to RISK newsletter. "This problem is particularly urgent for this country because of its serious environmental problems."

Leading specialists who made presentations at the seminar include D. J. Clifton, former manager of the Project Department of AEA Technology; A. Gheorghe, the United Nation's project secretariat; Eremenko, who is with ICES and is a member of the SRA-Europe Executive Committee; Jan Holmberg of the Research Centre, Finland; and V. Gubanov, the chairman of the Emergency Committee of the Russian Ministry of Atomic Energy.

The seminar's topics included the experiences of organizations in carrying out risk analysis of Russian industrial areas; risk management for large industrial complexes and energy systems; and safety management.

For more information, contact Vitaly Eremenko by telephone at (095) 196-9579, by fax (095) 924-6852, or e-mail Imi@Imis.kiae.su.

SRA-Japan Holds 6th Annual Meeting

"Informed Consent and Risk Communication" is the theme of SRA-Japan's Sixth Annual Meeting and Symposium, which will be held on November 25-26 at the offices of Yasuda Maritime & Fires Insurance Ltd. in Shin-Juku, Tokyo.

Three sessions are planned on risk communication and decision making, risk management and insurance, and environmental audit.

For more information, contact Deputy President Saburo Ikeda, Institute of Socio-Economic Planning, University of Tsukuba, Tsukuba, Ibaraki 305, Japan, telephone (298) 53-5380, fax (298) 55-3849.

3.6 第6回研究発表会 参加申込書

研究発表会（1993年会）への参加申込を事務局あてにご返送下さい。

（締切：11月10（水））

氏名		会員 種別	会員 準会員	賛助会員
所属				
連絡先 Tel.	〒()			
参加 種別	研究発表会 第1日目（11月25日） 懇親会（11月25日）	第2日目（11月26日） 丸で囲んで下さい		
講演 論文集	必要部数 部			
新会員 の 紹介先				
学会 への 意見 コメント				